

<b>9-8</b>			
主題	食物繊維を使用して利用者様の負担を軽減する		
法人名	社会福祉法人 道心会		
事業所名	藤香苑		
発表者（職種）	吉永恭平、栗原大樹（介護職員）		
共同研究(実践)者	石川圭太、野本拓穂、鎌田ゆき子		
電 話	042-597-7222	F A X	042-597-7225

今回発表の事業所やサービスの紹介	東京都日の出町にある特別養護老人ホームです。山と川に囲まれた豊かな自然環境の中、心のこもった介護・看護を提供しております。また、お体の状況や嗜好に配慮した食事、寝たきりの方でも入浴可能な機械浴を用意しております。
------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<b>《1. 研究(実践)前の状況と課題》</b>
状況：自力排便回数が少なく、一ヶ月あたり約 50%は-3 日~-5 日で下剤を使用しての排便となっていた。
課題：日々の中で当たり前のように下剤を処方され使用している利用者様に下剤以外で負担なく排便できる手段はないか。
<b>《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》</b>
下剤による問題点を調査した結果「便秘の原因・排便リズムを狂わせる」などの様々な問題点が挙げられた。排便には食物繊維が効果的であり、食事や水分に溶かして摂取できる食物繊維というものを知った。そこで食物繊維を使用して下剤の量を減らし、利用者様への負担の軽減、かつ医療費の削減に取り組む。
<b>《3. 具体的な取り組みの内容》</b>
対象者：便秘の割合が一ヶ月あたり約 50%
摂取量：1 日に必要な食物繊維÷3 回
摂取方法：様々な水分（味噌汁、飲料）
調査：研究前後の便秘回数から便秘の割合を出す
下剤の使用量を確認し医療費の差を確認する
<b>《4. 取り組みの結果》</b>
自力排便の割合が約 80%まで上昇し下剤の使用回数が減少。また、医療費の削減にも繋がった。よって、利用者様の負担軽減に成功。

<b>《5. 考察、まとめ》</b>
食物繊維を使用することで、便秘改善が見られた。今回は 1 名の方に焦点をあて効果が確認できた。今後は多数の利用者様に焦点をあて、個人差等も考慮していく必要があると考える。
<b>《6. 倫理的配慮に関する事項》</b>
なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。
<b>《7. 参考文献》</b>
施設内の排泄チェック表 平成医療福祉グループの学術発表
<b>《8. 提案と発信》</b>
下剤の使用量軽減の対策として、食物繊維の導入は効果的だと考えられる。